



憧れの自衛官へ、艦艇で横浜へ出航



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月19日（金）、海上自衛隊の護衛艦「やまぎり」の体験航海に、自衛官を目指す学生等3人を引率した。

この体験航海は、海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）から横浜市まで同艦で航海し、将来海上自衛官を目指す若者に、護衛艦内で働く隊員を直に見て、海上自衛隊を身近に感じてもらうとうと行われたもの。

横須賀基地の岸壁に到着した参加者は、まず目の前飛び込んできた「やまぎり」の大きさに息をのむとともに、整列した隊員の凛々しい敬礼が自分たちに向けられていることに、緊張した足取りで乗艦した。艦内では出航に向け全乗員がそれぞれの持ち場で黙々と作業しており、出航ラッパの合図と共に離岸、横浜へと舵を取った。

体験航海中の参加者は、艦橋、機関室、食堂などを見学。はつらつとした海上自衛官に、艦内での仕事や生活についてその場で質問し、これから自分が勤務するかもしれない艦内での勤務や生活、入隊後の教育内容に関する疑問を次々に解消していった。

体験航海を終え退艦した参加者からは「乗員一人ひとりに大切な役割があり、航行に必要な仕事を若い隊員にも任されているのを知った」「護衛艦に勤務している女性隊員が多いのを知り、自分もその一人として頑張りたい」といった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も自衛官が仕事をしたい職を研修する機会に多くの若者に参加してもらい、自衛官を目指す若者を積極的にサポートしていく。

静岡地本と神奈川地本が合同で海自の魅力をPR！



地本広報ブース



特別公開体験喫食

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月20日（土）と21日（日）、熱海港耐震岸壁（熱海市）において「海上自衛隊特務艦はしだて艦艇広報」を実施した。

これは、両県にまたがる相模湾内の熱海港において、大きな護衛艦以外の艦艇の魅力も知ってもらうと、静岡・神奈川両地方協力本部が合同で実施したもの。

静岡地本と神奈川地本は、競い合うように広報ブースを並べて設置。当初は温泉や海釣りを目的に熱海を訪れていた家族連れなどから、「大砲がないですが自衛隊の船ですか」「今からでも乗れますか」と尋ねられ、意外な人気に広報官は丁寧かつ速やかに対応するとともに、自衛官募集の告知や艦内見学者の集客に努めた。

一方、「はしだて」の艦内では、同艦が国内外の賓客への接遇や、災害時に負傷者の救護にも使用されることを、乗員が丁寧に説明。見学した家族連れは「ホテルのようですね」と木目の美しい豪華な内装に驚き、子供たちは負傷者救護に使用するAED装置の使い方をはじめ、「よいしょ、よいしょ」と心臓マッサージを兄弟で体験していた。

また、静岡と神奈川の高校生や大学生等を招待し、特別公開を実施。全国的にも有名な「海上自衛隊カレー」の中でも特に美味しいと評判の「はしだてカレー」の体験喫食では、「艦内で食べるカレーは一段と美味しい。普段お母さんがカレー粉で作るカレーよりも、スパイスの複雑な味がする」と参加者は笑顔でほおぼっていた。

静岡地本は、自衛隊の魅力をアピールし、任務や活動に対する理解促進を図るとともに、優秀な若者が一人でも多く自衛官を志願してくれるよう邁進していく。

空自入間基地で高校生が航空自衛官の幅広い仕事を見学



T-4見学



パトリオット見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、7月23日（火）、航空自衛隊入間基地（埼玉県狭山市）で行われた部隊見学会に、航空自衛官を志望する高校生を引率した。

この見学会は、静岡や関東甲信越地域に住む高校生・大学生等を対象に、航空自衛隊の基地で働く隊員と直接話をしたり、基地内の生活環境を実際に見学して将来の職業の一つとして自衛官への関心を高め、さらに入隊後の生活や仕事を具体的にイメージしてもらおうと行われたもの。

参加者は、格納庫に駐機しているT-4中等練習機やC-1輸送機を見学。操縦席に座りつつ、パイロットやエンジニア、機体整備員の仕事について説明を聞いた。また、基地全体が見渡せる管制塔の上り、パイロットとの重要な通信を担当する管制官の業務を直に見つつ、次々に離陸する航空機を間近に見ることができ、「空に関わる仕事」の雄大さを感じていた。

また、16の部隊が所在する広大な基地内を大型バスで移動し、ニュースなどで見ることもある「パトリオット」を運用する高射隊、滑走路や建物の補修などを行う施設隊、物品管理を行う補給隊、電話から衛星まであらゆる通信を担う通信隊を次々と訪問した。参加者は、それぞれの部隊で働く隊員と心行くまで話し込み、静岡から参加した高校生は「最初は補給隊が気になっていましたが、さまざまな車両がある施設隊にも興味が出てきました。各部隊の女性自衛官に話を聞くことができたのも良かったです」と感想を話していた。

静岡地本は、今後も基地見学等の機会を積極的に設けて、自衛隊には多くの職域があり、一人ひとりの能力に応じた仕事に就くことができることをPRするとともに、自衛官を目指す若者のサポートに努めていく。